

# 令和5年度 向陽小学校 校内研修計画

## 研究主題

子ども自らが学びを創る授業づくり  
～複式授業を見据えた主体的な学びの充実を通して～

### 1 研究主題設定の理由

#### (1) 社会的背景から

昨今の経済や環境、グローバル化などの社会情勢において、将来の予測が困難な時代に突入している。こうした中で、持続可能な社会を構築していくためには、課題と向き合い、様々な視点から物事を捉え、課題の解決に向かっていくことが重要である。学習指導要領には育成すべき資質・能力として以下の3つを柱としてまとめている。

- ① 「何を理解しているか、何ができるか（生きて働く『知識・技能』の習得）」
- ② 「理解していること・できることをどのように使うか（未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成）」
- ③ 「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養）」

これからの時代を生き抜いていく向陽っ子にとって、自らの学びを創造し、課題解決に向かう能力を伸ばしていくことが、持続可能な社会の担い手を育成することにもつながると考え、研究主題を設定する。

#### (2) 本校の教育目標から

本校では、「よく学び、よく遊べ」を校訓に掲げ、その具現化に努めている。この校訓を実現するために、教育活動の中でより主体的に考える場の工夫や個に応じた学習を推進すること、また、さまざまな対象と対話するなどの協働的な学びを充実させることで、この校訓を達成できると考える。

#### (3) これまでの研究から

本校は令和2年度からの3年間、「『深い学び』の実現をめざした授業の創造～国語科における対話的な学びの充実を通して～」という研究主題のもと、研究を進めてきた。この取組を通して、子どもたちが「課題を解決したい」「この学習は自分たちの学びなのだ」と感じたときこそ、対話的な学びが充実し、一段階深い学びへと到達することを実感した。さらに、話す力・聴く力のレベルアップを図ったり、「学びに向かう集団づくり」を作るために「学習規律」を強化したりすることで、一人ひとりの学びの深化へとつながっていくことが分かった。また、「振り返り」は、学習の理解や自己の成長を促すために必要不可欠であること、さらに系統性をもたせたり、導入で学級全体に広げたりすることで、さらなる学力向上につながることを実感することができた。

また、今年度から複式学級が2学級となり、さらに「へき地・複式教育研究部」への所属もしたばかりである。複式の授業においては児童自ら学びへ向かうことが非常に重要である。また、昨年度山口大学教育学部附属山口小学校から授業アドバイザーをお招きして、「個別最適な学びと協働的な学びの充実」についても講話をいただいた。個人差が大きい本校の児童にとって個別最適な学びを充実させることは、主体的な学びを推進していくことと方向性は同じであると考えられる。さらに、昨年度まで研究を積み重ねてきた対話的な学びは協働的な学びを充実させることと非常に似ていると感じた。昨年度までの本校の成果と課題を生かしながら、今年度の研究主題の初年度としたい。今年度は、特に複式授業を念頭において主体的な学びに向かうための指導の工夫について研究を進めていく。

## 2 研究仮説

特別支援教育及び複式教育の視点を基盤に、目的意識・課題をもたせるための導入場面において指導方法を工夫したり、複式授業を可能にするために子どもたち自らが学びを進めるための方策を身に付けさせたりすることで、主体的に学びに向かう力が育成され、子ども自らが学びを創ることができるであろう。

## 3 研究の内容

### (1) 研究の視点

子ども自らが学びを創るための7つステップ

- ・自らの学びに対して目的意識・課題をもつこと
  - ・目的達成、課題解決のための学習を構想すること。
  - ・構想した学習活動の実現のために具体的な方法で学習を推進すること。時には、試行錯誤の結果として軌道修正すること。
  - ・自分が困ったときに、仲間や教師と協働して、学習を継続すること。
  - ・学習の成果を仲間に伝え、共有するために表現すること。
  - ・自分の学びについて振り返り、次の学びにつなげて生かすこと
- (「小学校「個別最適な学び」と「協働的な学び」をつなぐ国語授業」より抜粋)

以上を支えるのが教師の役割となる。どのように指導を工夫すると、児童がスムーズにステップをふむことができるのかを共に考え、全教員で成果と課題を共有していきたい。

そこで、以下の2点を今年度の研究の視点とする。

- ①目的意識・課題をもたせるための導入場面とは
  - ・問題の提示、課題のもたせ方、ずれや問題意識の共有
  - ・まとめや振り返りから逆算した学習課題設定
- ②複式授業を可能にするために子ども自ら学びを進める方策
  - ・リーダー学習
  - ・ずらしとわたり
  - ・授業スタンダードの定着※授業評価に則して
    - めあてとまとめを黒板に書く。
    - 振り返りの時間を確保する。
    - 課題解決のために自分で考える、まとめる活動を仕組む。
    - 友達と学び合う場面を設定する。
    - ICTの有効活用に努める。
    - 個に応じた指導に努める。(時間、量、教材、教え方)

### (2) めざす子どもの姿

- (全校共通) 課題の解決に見通しをもち、粘り強く取り組む子
- (低・特支) 自分の学びを振り返ることができる子
- (中) 友だちとの学び合いにより、自分の学びを振り返ることができる子
- (高) 自分の学びを見つめ直し、次につなげることができる子

## 4 研究の取組

- (1) 具体的なめざす子どもの姿を設定する。
- (2) 年間を通して、具体的かつ子どもの姿として、成果が見える実践を行う。
- (3) 検討会や研修会を通して、授業力・授業技術などの教師力の向上を図る。

## 5 研究の方法

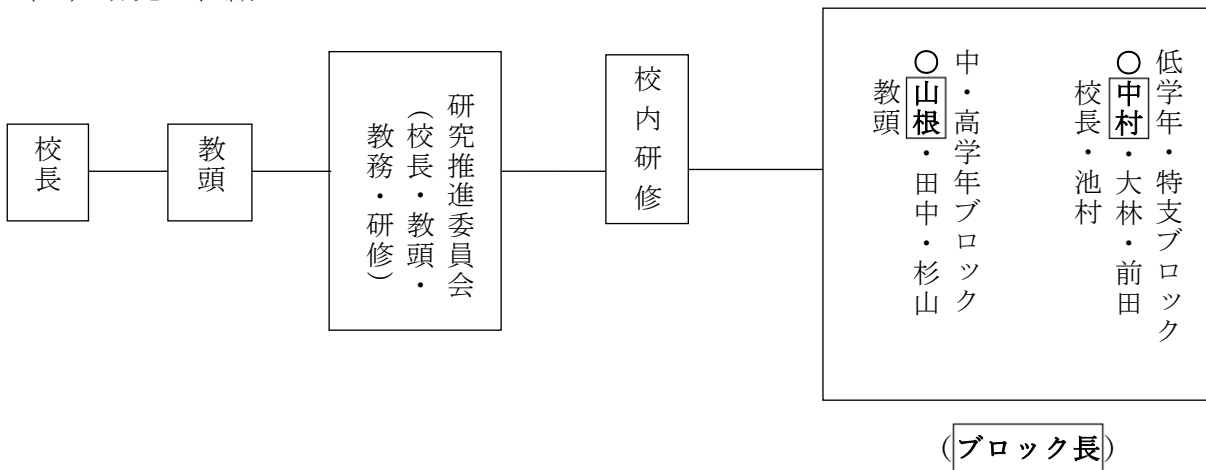
(1) 各ブロック（低・特支・中・高）を二つのグループ（特支低、中高）に分けて所属する。

- 各グループからそれぞれ1回、計2回の全体研究授業を行う。
- 全体研究授業の指導案は細案とし、グループで事前検討を行った後、全体で検討を行う。さらに、指導者を招聘し、全体研究協議を行う。
- 各グループからそれぞれ1回、計2回のブロック研究授業を行う。
- ブロック研究授業の指導案は略案とし、グループで事前検討を行い作成する。指導者は招聘せず、全体研究協議を行う。
- 各グループからそれぞれ1回、計2回の互見授業を行う。
- 互見授業の指導案は略案とする。指導者招聘、研究協議もしないので、授業参観をして、気づきを授業者に提出する。

(2) 研究のまとめ方

学習指導案と考察、研究の成果と課題をまとめる。

(3) 研究の組織



## 6 研修計画（4月25日）

研修日	研 修 内 容
4月 日 18日 19日	研究推進委員会 ・研修主題、研修内容、年間研修計画 全国学力調査、確認問題採点 第1回校内研修会 ・研修主題、研修内容、年間研修計画、指導案様式
5月17日	第2回校内研修会 ・全学調と確認問題の課題分析、 ★児童アンケート1回目実施
6月 7日	第3回校内研修会 ・緊急事態シミュレーション
7月25日	ノート展1回目 第4回校内研修会（夏季研修） ・人権研修、1学期の振り返り（兼学力向上）
8月18日 23日	長門市学校教育研究大会 ・オンライン？ 第5回校内研修会 ・研修会復伝、指導案検討①②、2学期の取組
9月20日	第6回校内研修会 ・全体授業研究①（3・4年 田中 翔大）、研究協議 講師
10月25日	第7回校内研修会 ・ブロック授業研究①（1・2年 大林 このえ）、研究協議
11月 1日 11月29日	第8回校内研修会 ・ブロック授業研究②（6年 杉山 真弓）、研究協議 第9回校内研修会 ・全体授業研究②（たんぽぽ1組 中村 浩二）、研究協議 講師（授業アドバイザー希望）
12月	ノート展2回目
1月24日	第10回校内研修会 ・学向上研修、研修会復伝（※へき複の研修会） ※研究紀要 締切（1月末）
2月14日 28日	★児童アンケート2回目実施 第11回校内研修会 ・新教科書に向けたカリキュラムづくり、研究紀要作成作業 第12回校内研修会 ・今年度の成果と課題、来年度の研修の方向性
3月	